

NDC 相関索引の下部構造に関する一考察

—第7版，第8版の索引比較研究—

志 保 田 務

まえがき

わが国における汎用の図書（館）分類表である「日本十進分類法」（Nippon Decimal Classification：以下「NDC」）は，刊行以来55年の歳月を重ねている。現時点における最新の版は，1978年発行の新訂8版（以下「8版」）である。

本稿はこのNDC8版の相関索引について，その直前の版である同新訂7版（以下「7版」）との比較を軸とした分析，考察を行なおうとするものである。

発行以来すでに6年を数えるNDC8版に対しては，多くの研究が，すでにものされている。しかし，それらの殆どは，分類表本体を対象とした論説である。相関索引に対する研究は，ごく少数である。この種の研究として筆者が知りおよび文章は，Text中のものを除けば寡聞にして4本¹⁾である。

NDCの相関索引に対する追究の欠如は，8版に限られた事情ではない。旧版にさかのぼっても，日本図書館研究会兵庫地区研究グループによる「NDC新訂6—A版と新訂7版との相関索引の比較と活用」（図書館界14巻5号 1963.1）を加えうるに過ぎない。

索引全体としても，漸く研究の端緒が開かれたという状態である²⁾。

このような事情にあるので，NDCの各版の編集者たちは，その内輪において種々工夫を重ね，相関索引の改訂，改革を進めて来たものと思われる。無論公聴会の類は続けられて来た。しかし，そういった時限で，まとまった議論や批判がなされることはむずかしい。何らかの形で書きとめたものが必要である。

こういった見地から小論を表わした。ただ諸般の事情から，相関索引（以下

「索引」)の下部構造について、7版、8版の小比較を行なうにとどまり、索引全体の構成、索引語本体の構造・名辞(用語)等に言及していない。

1 NDCの索引構造

まず初めに、NDC索引の下部構造の状況について掌握する。

NDC 7,8索引は共通の印刷イメージを呈しており、A4版を標準版とした紙面の左側に名辞、右側に数桁の数(分類記号)を記している。このうち、名辞(漢字、仮名等による)には、段落、記号等が施されている。

NDCは、その構成要素に対して殆ど名称、説明を与えていない。いずれの版においてもそうである。そこで論述上の必要から適当な用語をあてがった。当章で用いる事例は特にことわらない限り、8版索引から採ったものである。

(表 1)

車輛. 車輛工学	536
電気車輛	546
宗教学	161
宗教画 — 画法	724.5
宗教改革(キリスト教)	* 190.23 (* 192.3が正しい)
宗教思想	161
じゅうしまつ(動物学)	488.99
—飼育	646.8
就職試験	336.42
—問題集	307
集落(社会学)	361.7
(植物学)	471.71
* 集落(地理学) (* 7版索引項目)	290.17
集落地理学	290.17

NDC関連索引の下部構造に関する一考察

1. 1 索引項目

索引を構成する一行ごとの項目一単位それぞれを、索引項目という。

各索引項目の左部には索引語が、右部には分類記号が記されている。各分類記号は、それぞれの索引語が所在する分類表本表の所定箇所を示す。この意味から〈所在指示³⁾〉と称されている。

1. 2 索引語のうちがわ

1. 2. 1 索引語の本体と付加語

索引語は本体と付加語で構成されている。

事例1. (表1) からの抽出.

(1) じゅうしまつ (動物学)	498.99
(2) 一飼育	646.8

いずれも、「じゅうしまつ」が本体であるが(1)では「(動物学)」が、(2)では「一飼育」が、本体に付加されている。

このうち本体は〈見出し語〉と呼ばれることが多い⁴⁾。しかし本稿では付加語との関係を明白にするために、あえて、この語を用いる。

付加語はそのいずれもが、本体を限定、修飾するものであって、そういった性質に基づき〈下部項目語〉あるいは〈限定詞⁵⁾〉等と称されている。しかしここでは、上記本体と同様の理由から、この語を使用することとした。

付加語は、限定語形と細目語形の2種類が見られる。

1. 2. 1. 1 限定語

事例1の(1)における「(動物学)」は、本体「じゅうしまつ」を限定する機能を有する。こういった「()」(まるがっこ)につつまれた付加語を、限定語と称することにする。

1. 2. 1. 2 細目(語)

事例1の(2)における「一飼育」を細目(語)と呼ぶことにする。限定詞の一つではあるが、記号系が異なるので、限定語と区別するため、このように

呼ぶ。

1. 2. 2 転置項目

事例 2. (表 1) からの抽出.

(1) 車輛. 車輛工学	536
(2) 電気車輛	546

この(1)と(2)の間には、段落が設けられている。これによって「電気車輛」が「車輛」の下に属さしめられていることを示している。「電気車輛」は、本来の位置「デンキシャリョウ」に当然記されているが、それとは別に、「シャリョウ」の位置にも挙げられているわけである。こういった処置は索引の機能を高めており、評価すべきものである。

さて、(2)のような形を採る項目は、直上の無段落の行、つまり(1)につながり、限定詞(付加語)の一つあるいは<小見出語>⁶⁾といえよう。しかし、その行自体を一項目と見れば、下記のごとく転置して読むべきものである。

車輛...電気

即ちこういう類は、本体(ここでは「車輛」)を省略し陰に転置されたものと見ることができる。このような段落を施された項目を転置項目と呼ぶ。

1. 2. 3. 併記項目

事例 3. (表 1) から抽出

(1) 車輛. 車輛工学	536
(2) 宗教学	161
(3) 宗教思想	161

この(1)のように、一索引項目内に複数の索引語が記されているものを、併記項目という、同一項目内の名辞は、索引語の頭部が一致し、分類記号が同じであるという特徴を有している。(2)と(3)は単数の索引語を記しており、単記項目とでも言うべきものである。当事例については上記の条件を備えているから、下記のように両者を一本にして併記項目とすることも、実質上はできたであろう。

宗教学. 宗教思想

161

もともと、併記のかたちは、避けることが望ましい。

1. 3 索引項目のそとがわ

1. 3. 1 単項目と複項目

事例4. (表1) から抽出

- (1) 宗教画 — 画法
 - (2) 宗教学
 - (3) 宗教改革 (キリスト教)
 - (4) じゅうしまつ (動物学)
- 飼育
- (5) 就職試験

— 問題集

これらのうち、(4)、(5) では、索引語の本体が一致する複数の索引項目の存在がみられる。こういった種類のものを複項目という。逆に、そういった、組みになった索引項目のない単独の項目を、単項目と称する。

1. 3. 2 親項目と子項目

複項目の一種に親子項目がある。

事例5. (表1) から抽出

- (1) 車輛. 車輛工学
- (2) 電気車輛

転置項目 (前出: 1.2.2.: 段落をもって記された行) と、その直上の無段落の行との関係を親子関係にたとえる。組になった状態が親子項目、切りはなすと親項目、子項目である。

1. 3. 3 兄弟項目

事例6. (表1) から抽出

- (1) じゅうしまつ (動物学)
- 飼育

(2) 集落 (社会学)

(植物学)

索引語本体を共通にする複数の索引項目間の関係であり、複項目の主流である。付加語を持たない索引語と、付加語付きの索引語の組み合わせ、及び付加語付きの索引語どうしの組み合わせ、そのいずれもの形がある。

2 索引項目下部の変更態様の概観

7, 8 両版において実質同一の索引項目であるが、付加語の名辞, 種類 (符号) が異なるものが少ない。こういった変更点をここで確認する。しかしそれらの変更には、一貫した方向性等を見出すことは困難であった。ただ幾つかのパターンには集約されうるので、典型的に把握することとする。したがって、計数的には言及しない。

本章で用いた事例は両版の索引項目 (本体, 付加語, 分類記号) である。対比した付加語 (各組内) は、両版で一致した名辞が索引語本体上に示されており、同一の分類記号を所在指示としているものである。

2. 1 細目語形と限定語形

両版で、索引語本体および分類記号が一致しておりながら、付加語の名辞が異なり、付加語の形式が限定語形, 細目語形の間で変更しているものがある。ここではそういった事例を扱う。

索引語本体に対する限定語それぞれの名辞は、本体の語よりも分類概念上では上位のものであることが多い。一方、細目語は、索引語本体の直接の下部形式であるから、本体との関係にあっては下位の概念の語か、部分・枝を表わすに適した通用の表現 (名辞) であることが多い。両者はこのように性質が異なるので、両版を対照して “名辞は同じだが形式 (限定語形, 細目語形) は異なる” という形のものは、ごく少数である。

さて、これらの検討を進めるうえで、前提的に確認しておきたいことがある。

NDC関連索引の下部構造に関する一考察

それは、細目語形（細目を伴った索引項目）は、親項目が上位にある場合にしか立てることができない、ということである。細目は下部形式だからである。7版にはこのわくを破った索引項目が少くない。8版はこの点改善されている。ただし一掃されたわけではない。下記のような事例があるのである。

事例6. (表1) から抽出

(1) 宗教画一画法 (“宗教画” の項目はこれ一つだけである。)

こういった細目の用法は、複項目においても、それらが兄弟項目である場合には首肯しがたいものである。就中、単項目においてはあくまでも、細目の使用は避けるべきであろう。

(表2)

索引語 (両版共通, 以下同)	付加語 (7版)	付加語 (8版)	分類記号
(1) 郷土資料	一整理	(図書館)	014.72
(2) 勅版	一書目	(書誌学)	027.1
(3) 窒素化合物	一脂肪酸	(化学)	437.7
(4) 網膜	一疾患	(眼科学)	496.34
(5) 競技場	一建築	(建築)	526.78
(6) 体温計	一製造	(精密工学)	535.3
(7) 望遠鏡	(精密工学)	一製造	535.82
(8) 双眼鏡	一製造	(光学機器)	535.82
(9) 眼鏡 (メガネ)	一技工	(工学)	535.89
眼鏡 (ガンキョウ)	(光学機械)	(光学機器)	535.89
(10) 放射線障害	一防禦	(工学)	539.68
(11) 灯台	(照明工学)	一燈火	545.65
(12) ダイヤモンド	(鉱業)	一採取	569.9
(13) 光学ガラス	(化学工業)	一製造	573.575
(14) 戸棚	一製造	(家具工業)	583.77
(15) スポーツ用品	一製造	(製造工業)	589.7

(16) そば	—製造	(農産加工)	619.39
(17) すいか	(園芸)	—栽培	626.23
(18) ヤク	(畜産)	—飼育	645.39
(19) きり	—造林	(造林学)	653.7
(20) えび	(漁業)	—漁法	664.76
(21) こんぶ	(漁業)	—採取	664.8

これらの事例によって検討していく。

(1) 「郷土資料」は、両版いずれにおいても単項目である。従って7版で細目を使用しているのは、不適切な処置と言わなければならない。しかも「郷土資料」に関する検索の範ちゅうが、「整理」と限定されてしまっているのは、適当ではないと考えられる。8版が、その付加語を「(図書館)」という限定語に変えたのは、適切な処置であったと考えられる。

(2) 「勅令」は、7版では、当該の「一書目」という細目をともなった項目の他に022.31(刊本：版式)へ導く親項目がある。「一書目」の方は、027.1(各種の目録)へ導く。さて対比される8版の該当項目は単項目であり、その「(書誌学)」という限定語は、027.1(特殊目録)へ導くためのものとして適当とはいえない。この限定語「(書誌学)」は、むしろ022.31(刊本：版式—日本)につながるものであると考える。ここにおける比較に関して言えば、7版に於ける処置の方が勝れているように思われる。

(3) 「窒素化合物」(437.7)は、7版上この「脂肪族」との細目語を付す項目の他に、「(化学工業)574.6」,「一芳香族438.7」という付加語、分類記号を付した兄弟項目を持っている。8版に於ける当該の兄弟項目は「(化学工業)574.6」のみである。さて本項で直接の対象としているのは、分類記号437.7を導く索引項目である。8版は、上表で見ると、この項目に対して、「(化学)」との付加語を与えている。7版のように、同じ化学分野の他の項目(付加語「一芳香族」=438.7を伴う)を掲載していないから、この(化学)とい

う限定語は、決して広きに過ぎるものとは見えない。ところが、8版分類表本表上、438.7の箇所には「窒素化合物」との項目がある。こうなると、上記437.7に当たるものに「(化学)」との限定語を与えたことは、当を得ないというべきであろう。また、芳香族関係の索引項目を、ここで落としていることも疑問なしとしない。もっとも、化学に造詣の深い中村初雄先生が、この8版の編集委員長であるから、筆者等には思い及ばない処置の理由があるのかも知れない。

(4) 「網膜」に関する検討は省略する。

(5) 「競技場」に対する付加語の名辞は、両版ともに〈建築〉である。ただ、付加語の形式は、細目語(7版)、限定語(8版)に分かれている。こういうように両版間で“付加語が名辞で同じだが種類で異なる”形のものは珍しい。

そこで、付加語〈建築〉をとおして、こういう問題の一端を探ってみたい。

8版では、次のような基準で、この語を付加語として用いているように見られる。即ち、索引語本体が「各種の建築」にあたる建造物である場合には、限定語形が採られる。また、建築構造、住宅建築、建築設備等の個々のものの名称に関しては、細目語形が採られている。7版においては見つけることの出来なかったたぐいのことである。8版が、こういった面に関しても、一定の目安をたてて作られていることが分かる。

(6) 「体温計」は7版では単一項目であり、そこにおける細目語の使用は当を得ない(「一製造」)。8版で、限定語形(「精密工学」)となったのはよい。

(7) ところが、「望遠鏡」での、その付加語は、名辞、種類ともに(6)とは全く逆の形となった。7版では「(精密工学)」8版では「一製造」である。体温計、望遠鏡は共に、分類記号535 傘下のものであるのだが。

(8) 次に「双眼鏡」について。上記「望遠鏡」と似た品物である。分類記号も同一の535.82である。しかし不可思議なことに、付加語は、7版が細目語形、8版が限定語形である。具体的には、7版では「一製造」、8版では「(光学機器)」となっており、「望遠鏡」と異なる。7版にいたっては、「体温計」

と同じ形を採る。もともと、7版がふらふらしていたのである。8版はそれを正すべきであった。8版は、たしかに7版を修正した。ただし、重要なのは、当然その中身なのであって、系統だてもせずに単に置き換えるだけではだめである。

(9) 「眼鏡」について。このケースは更に奇怪である。「メガネ」及び「ガンキョウ」の箇所に索引項目が配されている。そのことは、相関索引性を高めており勝れたことである。しかし、これら二つが異なる付加語を持っているのは、何故だろうか。「メガネ」の方は「一技工」(7版)、「(光学機器)」(8版)であり、「ガンキョウ」の方は両版ともに「(光学機械)」である。

読みの違いによって付加語を変える必要はどこにもない。また、「ガンキョウ」の方の付加語「(光学機械)」は、人が顔に付ける器具のための語としてはふさわしくない。

(10) 「放射線障害」について、その付加語としては8版の「(工学)」の方がよい。7版の「一防禦」では兄弟項目の「放射線障害一病理学」と識別することはむずかしいであろう。

(11) — (14) 検討を省略する。

(15) 「スポーツ用品」に関して。7版では単項目であり、「一製造」というその細目語形の使用は不適當である。

(16) — (19) 検討を省略する。

(20) 「えび」について。8版の付加語「一漁法」は、この索引項目の兄弟項目の付加語「一養殖」との相違を明示し得ている。

(21) 「こんぶ」における8版の付加語「一採取」の場合も同様である。これら、(20)、(21)において7版は、いずれも「(漁業)」としていた。8版が行なった改善の事例とすることが出来るであろう。

2. 2 限定語形と複合語形

一方の版で限定語形を採っており、他方の版で複合語形を採っている、その

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

ようなケースに限って対照，検討する。複合語とは，一個の索引語が分割可能な（その意味で複数の）名辞によって成るものであり＜複合見出し語⁷⁾＞といわれる。対照する項目は，索引語本体の頭部が一致し，分類記号が同一の，両版の索引項目である。末尾の表現では幾分違うように見える項目をも含み，筆者に於て同一対象と判断したものを採録した。

これらの索引項目について，下記の要件に照らしつつ考察する。

* 分類表本表の所定箇所にその索引項目に相当する名辞が存するか。

* その分類表本表名辞は索引項目の名辞と一致しているか，否か。

* 両版の分類表本表の名辞どうしは一致しているか，否か。

2. 2. 1 両版の本表に，その索引語本体と一致する名辞があるもの

2. 2. 1. 1 両版の本表の名辞どうしが同じである場合

(A) 7版の索引語本体が本表の名辞と一致しているもの

a 8版で限定語形となったもの

7版索引	8版索引
県主制度	県主（法制史）
転位理論	転位（化学）
b 8版で複合語形となったもの	
仏像（彫刻）	仏像彫刻
小学校（学校経営）	小学校経営
石造（建築工学）	石造建築
バロック様式（美術史）	バロック美術
食用油脂（化学工業）	食用油脂工業
砒酸（化学工業）	砒酸工業
転炉法（製鋼）	転炉鋼

(B) 8版の索引語本体が本表の名辞と一致しているもの

a 8版で限定語形となったもの

7版索引	8版索引
難聴児教育	難聴児 (教育)
月面学	月面 (天文学)
ラッサール主義	ラッサール (社会思想)
自転車工業	自転車 (工学)
精練漂白	精練 (染色)
投入花	投入 (花道)
正統学派経済学	正統学派 (経済学)

b 8版で複合語形となったもの

集落 (地理学)	集落地理学
身体障害者 (社会福祉)	身体障害者福祉
村落 (地理学)	村落地理

8版における変更方針が、“分類表本表にあわせる”ことにあったわけではないことが分かる (A)。変更のリズムは非常に自由に採られているようである。

2. 2. 1. 2 両版の本表の名辞が相異なるもの

(各々の版内で索引語の本体と本表の名辞が一致するもののみ)

(A) 8版で限定語形となったもの

7版索引	8版索引
澱粉工業	澱粉 (食品工業)
ロケット機	ロケット (航空工学)
畑作農業	畑作 (農業経営)
スラム街	スラム (社会病理)

(B) 8版で複合語形となったもの

外国会社 (商法)	外国会社法
-----------	-------

NDC関連索引の下部構造に関する一考察

資産（会計学）	資産会計
俄（演芸）	俄狂言
寒冷法（臨床医学）	寒冷療法

分数表本表名辞の変更と連動した変更である。この連動は必然的なことではない。また、連動が望ましいわけでもない。索引語としての適切さが評価の対象となる。その点から、「ロケット（航空工学）」、「スラム（社会病理）」は8版における改善といえよう。「畑作（農業経営）」や「外国会社法」に関しては、同版の処置に賛同できない。7版における形よりも劣ると考える。

2. 2. 2 一方の版の本表にその索引語本体と一致する各辞があるもの

(A) 7版で本表に索引語と一致した名辞が存するもの

- a 8版で限定語形となったもの——該当の事例はない
- b 8版で複合語形となったもの

7版索引	8版索引
再生産（経済学）	再生産過程
圧印（工芸）	圧印加工
安全保障（国際法）	安全保障条約
手芸（学習指導）	手芸教育

(B) 8版で本表に索引語と一致した名辞が存するもの

- a 8版で複合語形となったもの——該当の事例はない
- b 8版で限定語形となったもの

内閣制	317.21	内閣（行政）	317.21
エッセイ文学	9□4	エッセイ（各国文学）	9□4

上記(B) bは、8版で、7版における不備を是正したと見ることができよう。「内閣制」は本表の317（行政）の下“内政部”に導く索引項目であった(317.21)。“内閣制”はこういった組織を指す言葉ではない。8版の採る「内閣」は妥当である。ただし「（行政）」との限定語は必要といえない。

「エッセイ（各国文学）」も8版の改善例である。ただその兄弟項目である「エッセイ（文学）901.4」は表現不足である。限定語を「（文学理論）」とするべきである。

2. 2. 3 両版の本表に、その索引語本体に一致する名辞がないもの

a 8版で限定語形となったもの

食肉加工	食肉（畜産加工）
亜麻繊維	亜麻（繊維工業）
鋼鉄材料	鋼鉄（材料工学）
人造絹糸紡績	人造絹糸（繊維工業）
奴婢制社会	奴婢（社会史）
挿木造林	挿木（林業）
鋼索工業	鋼索（製造工業）

b 8版で複合語形となったもの

7版索引	8版索引
ヘブライ（歴史）	ヘブライ史
ブリッジ（娯楽）	ブリッジランプ

2. 3 転置語形と複合語形

転置語形は前記（1. 2. 2）で記したように、ある索引項目（親項目）に従属する子項目の一種である。両版における表現手法がやや異なる。

a 7版が転置語形であるもの

7版索引項目	8版索引項目
アイロン	
電気——	アイロン（電気工学）
集団給食	
学校——	集団給食（学校教育）
細菌学	

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

医用	細菌学 (医学)
喘息 (呼吸器疾患)	
気管支——	喘息 (気管支性)
細胞学	
人体——	細胞学 (医学)
b 8版が転置語形であるもの	
	遊戯
遊戯 (学校体育)	学校遊戯
	治水
治水 (林業)	森林治水

7版での「電気アイロン」は親項目「アイロン (家事)」の子項目である。8版では「アイロン (電気工学)」は「アイロン (裁縫)」と兄弟項目になっている。検索性から言えば、8版の方が適切であろう。また7版は、本表にある製造工業関係の“アイロン 582.5”を索引項目から欠いていた。8版はこれらの諸点に留意している。

「喘息」においても、7版での索引項目の形は不適切である (挙例以外には子項目がない)。8版は兄弟項目として「喘息 (心因性)」を持つ。これは今日的時代に即応した項目であろう。ただし項目の所在指示・分類記号493.26は分類表本表上にない。493.36のあやまりであろう。

概して、限定語形の方が安定しているように感じられる。これは、根幹部分が目立つからそう感じるのかも知れない。複合語形は専門用語であっても、常用され難いものが少くない。そのためか子項目として転置語形が索引項目に採用されているのは、複合語形態では、「電気アイロン」「気管支喘息」(以上7版)、「学校遊戯」「森林治水」(以上8版)にすぎない。

3 限定語の諸態

ここでは限定語の諸態を小察（事例研究）する。なお、両版で索引語本体が同一であることを前提条件におく。

3. 1 限定語の有無（「複合語形 § 2. 2」を除く）

一方の版でのみ限定語が付されているケースである。しかも、いずれの例においても、どちらかの版は単一項目である。比較しやすさにポイントをおいて選定した。論述にあたっては、単一項目であっても限定語を付すことが好ましいという考え方を基盤として行なう。

3. 1. 1 複項目がある版に限定語が付されているケース

一方の索引項目は複項目であり、それぞれを区別する必要から限定語が付され、他方の版では単項目であるため限定語を不要としたと考えられる。最も常識的な形といえる。しかし単純に割り切ることはできない。

（A）7版が複項目，8版が単項目のケース

a 兄弟項目が限定語形の索引語によってなる項目であるとき

7版索引	分類記号	8版項目
水力学（力学）	423.8	
“（流体力学）	534.1	水力学

8版の「水力学」に限定語（「（流体力学）」）が付されなかったのは、7版の「水力学（力学）」を8版で採用しなかったことによると一応は考えられる。“一応”というのは単項目であっても限定語を付しているケースが、両版で多数存在しているからである。8版での「水力学」は索引語としては流体力学関係を表わし、限定語を付さない形をとった。水力学という概念が専ら流体力学分野のものであると考えたためであろう。概念関係からの検討はさて置くとして、外面的に小見しておきたい。

8版は多くの項目でこの項目のように枝を剪定している。これが索引項目数の減少につながっていると考えられる。

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

b 兄弟項目が細目語形，転置語形によってなる項目であるとき

肥料（農業）	613.4	肥料，肥料等
一分析	613.48	
一調合	613.49	
化学——	574.9	化学肥料
海水（海洋学）	452.3	海水
一利用	669	
材料力学（工学）	501.32	材料力等
機械——	531.2	

（以外略）

これらについて，8版で兄弟項目がなくなった理由を考えてみたい。

「肥料」では「一分析 613.48」「一調合 613.49」といった細目語を伴う兄弟項目が8版から除かれている。あらずもがなの細目語，兄弟項目であったからその抹消は首肯できる。

「海水」での剪定は兄弟項目の「一利用」を8版が「海水利用」と独立させたためであり，用語上の整合を行ったことに基いていると思われる。

「材料力学」では子項目の「機械材料力学 531.1」を8版で省いている。この処置は適切であろうか？ 8版本表の531.1には「材料力学」と名辞が記されているが，索引では，これに導く索引用語は採用されていない。もっとも隣接する“531.2 機械材料”に導く「機械材料」という用語は採用されている。「531.1 材料力学」とは別物であるこれらの用語によって検索させようとしているのであろうか。

（B）8版が複項目，7版が単項目のケース（省略）

3. 1. 2 複項目がある版で限定語が付されず，逆に，単一項目の版で限定語が付されているケース

(A) 7版が複項目、8版が単項目のケース

7版索引	分類記号	8版索引
蚊取線香	589.9	蚊取線香（製造工業）
“（農産加工）	619.92	
にかわ	579.1	膠（化学工業）
“（畜産加工）	648.5	
“（水産加工）	668.4	
生の哲学	114.3	生の哲学（哲学）
“（ドイツ哲学）	134.92	
スルフィン酸	437.6	スルフィン酸（化学）
“（環状化合物）	438.6	
“（化学薬品）	594.86	
床飾	597.7	床飾（住居学）
“（装飾）	757.8	
とみくじ	676.8	とみくじ（商業）
“（刑法）	326.22	

複項目であるにもかかわらず、それぞれを特定する限定語を付していない7版における処置は、不備と言えよう。当該の項目が、他の項目に対して“一般”にあたるものであるがゆえとも推察できないこともないが、そうであるとすれば「（一般）」との付加語を付すことも考慮すべきであったろう。「（一般）」は限定語というには異形であることを知りつつこう言うのは、7版においてこれが使用されている事例があるからである。8版が限定語を付したことは、改善と見てよかろう。しかしその付加した理由は別のところにある。つまり、7版にあった兄弟項目を削除したため、残された項目が旧版でのいずれの項目に該当するかを指示する必要があったのである。結局は、兄弟項目を除去し、単一の分類記号へのアプローチに抑えられてしまったことを、示すものとなっている。

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

(B) 7版が親子項目、8版が単項目のケース

7版索引	分類記号	8版索引
作文	816	作文(日本語)
英——	836	

7版の「作文816」は不適當である。また8版が、「作文、英——」を削除しているのもよくない。

(C) 8版が複項目、7版は単項目

ヒューマンリレーション (経営管理)	336.4	ヒューマンリレーションズ (社会学)
	361.6	〃
金属マグネシウム(冶金)	565.53	金属マグネシウム
	436.22	〃 (化学)
酸化(化学)	431.37	酸化
	434.6	〃 (合成化学)

こういうように、8版の変更の方向は一定していない。ここにあってもその方針の方向性を言ったものはまるで把握しがたいと告白せざるを得ない。

3.1.3 両版ともに単項目で一方または双方に限定語が付くケース

単項目にも、限定語を付すことが好ましい。当項で採りあげる単項目の一方または双方が、限定語を有するという事は、この点で評価すべきものである。従って、この件の議論はこれをほぼ出ることはないが、下記の検討を一応行っておきたい。

第一に、7版で使用されていた限定語が8版で除かれたケースで、その理由を推測する。また、その除去にどういった特徴があるかを探る。

第二は、逆に7版で使用されていなかったが、8版で限定語が付されたケースに当たり、上記と同様の検討を行なう。

まずは、リストアップして、表自体に語らしめてみよう。限定語を囲む記号()省略した。一印は付加語の無いことを示している。

桃山学院大学人文科学研究

索引語本体	7版限定語	8版限定語	同様の他の索引語
書庫	—	図書館	
施餓鬼	仏教	—	
数珠	—	仏教	
三位一体	キリスト教	—	
清教徒	—	キリスト教	正教会, 聖公会
性格	心理学	—	
袂詞	—	神道	
聖者崇拜	—	宗教	性器崇拜
エピクロス	哲学	—	
ギリシャ文化	歴史	—	サラセン帝国
先史時代	—	世界史	
戦記	—	軍事	
国葬	行政	—	
戦国諸家法	法制史	—	
資産再評価	会計学	—	
芸能科	—	各科教育	職業, 作文教育
内部監査	—	経営学	産業組織, ちんどんや
捜査手続	—	刑訴	
軍学	—	古代兵法	
生徒会	教育	—	P T A
臨海学校	—	教育	教育
銀婚式	民俗学	—	
男色	—	民俗	米寿
職業訓練	—	労働問題	職業
指話法	ろう教育	—	
君主国	—	政治	君主制

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

材料管理	生産管理	——	
老人	社会	——	
乳児院	社会福祉	——	
会社の清算	——	商法	
源泉課税	財政	——	
生理音響学	物理学	——	素粒子, 静電気学
珊瑚礁	地学	——	
砂丘	地形学	——	
粗面岩	——	岩石学	
顔面手術	外科学	——	
制腐法	——	医学	吃音
線型作用素	——	位相数学	
三角関数	——	解析学	
最小自乗法	——	確率論	
元素鉍物	鉍物学	——	
小児疾患	内科	——	
河川学	陸水学	——	
酸素吸入	臨床医学	——	
産褥	(産科学)	——	
進行麻痺	(精神学)	——	
二項定理	(数学)	——	多項定理
実験計画法	——	(数学)	数値計算
赤道儀	(天文学)	——	緯度, 星団, 星雲説
磁気測定法	——	(電気工学)	磁気回路, 磁気材料
信号回路	(電気鉄道)	——	
電極材料	——	(電気材料)	
洪水	(土木工学)	——	

桃山学院大学人文科学研究

界面電解	(化学工業)	—	
植物油脂	—	(化学工業)	晒粉, 植物蠟
炸薬	(火薬工業)	—	
平歯車	(機械工学)	—	
麻擦伝導装置	—	(機械工学)	
精密測定	—	(機械工学)	
図式力学	—	(工学)	
酸性白土	(鉱業)	—	石灰石
石墨	—	(鉱山工学)	
施開橋	(橋梁工学)	—	
平織	—	(織物工業)	
実験機械	—	(精密工学)	
作業研究	(生産工学)	—	
生産方式	—	(生産工学)	
索条	—	(製造工業)	
船底構造	(船舶工学)	—	船底塗料
酢	(食品工業)	—	
サッカリン	—	(食品工業)	砂糖
水陸連絡設備	—	(鉄道工学)	
サレージ	(畜産)	—	
酸性土壌	(土壌学)	—	
商港	—	(交通)	
合板	(木材加工)	—	
農道	—	(農業工学)	
精米	(農産加工)	—	
製炭	(林産加工)	—	
山腹工事	(森林工学)	—	

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

砂防工学	——	(森林工学)	
専門店	(商業)	——	問屋
外交販売	——	(商業)	
軟化栽培	(菰菜栽培)	——	
電話交換手	——	(通信事業)	
街園	——	(造園学)	
漫才	(演芸)	——	
鉦	——	(邦楽)	
女形	(歌舞伎)	——	
狂言作者	——	(歌舞伎)	
日本刀	(工芸)	——	
ハーモニウム	(音楽)	——	三重奏
手拭図案	(染色)	——	
平かな	(書道)	——	
サッカー	(体育)	——	縄とび
ショー	——	(大衆演芸)	
紅絵	(浮世絵)	——	
作文用語	——	(日本語)	修飾語
小品文	(文学)	——	
施頭歌	(日本文学)	——	歌話、地口

3. 2 限定語末尾部分の有無

両版で索引用語本体が同一、ともに限定語を有し、その限定語の末尾部分がわずかに異なる程度に酷似するケースをとりあげる。この“わずかの相異”は、一方の末尾が、他方の末尾に漢字一、二文字を加える形で表われている。このように末尾部分に加除の関係が対照されるたぐいのものである。

対象としたものの大部分は、「工学」を含め「学」の文字の有無（加除）に

かかわれている。たとえば、「(倫理)」と「(倫理学)」といった対照形である。この変更の、原則・傾向を探りあてることができまいかと、事例を分析し、幾重にか小考した。しかし、際立った特徴はない。原則は無論、傾向もつかみかねるのである。

3. 3 限定語の階層関係

両版で索引用語本体が同一、ともに有する限定語が全く異なるケースをここで扱う。検討の方法は、対照する当該限定語を本表にもどし、分類体系上で生ずる限定語間の階層関係(差異)を把握することとした。分類表は便宜上8版を使用した。

索引語本体	7版限定語	8版限定語	限定語間階層差
(A) 7版限定語が上位			
応力	(工学)	(材料工学)	3
かび	(食品工業)	(醸造学)	2
赤外線	(物理学)	(光学)	1
(B) 8版限定語が上位			
梁	(構造力学)	(工学)	4
軟骨組織	(解剖学)	(医学)	2
熱力学	(熱機関)	(機械工学)	1
(C) 限定語が同格			
焼玉機関	(船舶工学)	(造船学)	0

上記はその一部を例示したものである。これらの比較から、この種全般をみることにする。

特徴としては、限定語は兄弟項目との関係によって名辞が決定されている点をあげることができる。

「応力」は、7版で「(工学)」という限定語が付されている。これは兄弟項目の、「(物理学)」という限定語付きのものとの関係では問題はないが、

NDC相関索引の下部構造に関する一考察

「(機械工学)」という項目も同時に存しているので適切とはいえない。8版は「(物理学)」の項目を廃し、新たに「(構造力学) 501.34」を与えている。この新設項目に関連して、501.322 へ導く限定語を「(工学)」から「(材料工学)」に変更したもようで賛成である。「梁」の場合、両版とも兄弟項目として5類(工学)分野の「(機械工学)」「(建築学)」をもつ。したがって、8版の「(工学)」では限定の用をなさず不適切であるといえよう。7版限定語「(構造力学)」からの変更は不可解である。

単項目の限定語は、その索引項目を、他の項目との比較もなしで理解せしめうる力(補助力)を持たねばならない。そういった、わかり易さという点からいえば分類体系上の上位階層の語(名辞)が適していると考えられる。

「軟骨組織」に付されている限定語は、いずれの版のものも遜色はない。ただ上位階層にある限定語「(医学)」で十分に索引用語の限定の用をなしている。

また、限定語は本表に使用されている名辞から採用する形で統制することが理解を獲得しやすいと思われる。階層差が生じていないにもかかわらず、異なる版との間で限定語に不一致を生じているケースがあるが、この手法に立つことによってある程度防ぎうるものとする。

「焼玉機関」の限定語は「(船舶工学)」で十分であり、「鐘」についても「(邦楽)」でよい。こういった限定語付加の原則の不鮮明さのため、改善、改悪が混在している。ところで「雑穀」の限定語は、いずれのものも本表上で使用されている名辞ではない。本表にしたがえば“食用作物”とすべきであるが、その名辞が限定語として不適切な場合には、正確に分類記号へ導く、それに類似した用語を採用すればよい。7版「(栽培)」では「615 作物栽培」とまぎらわしい。この点8版「(農作物)」は限定語として十分機能をはたしているといえよう。

結論的にいえば、限定語は同一版内の兄弟項目との相対性を第一義に決定される。したがって、他版との比較は無理な点があるわけである。

しかし、一つには限定語の用語統制が欠けていることに、その原因があるように思われる。

おわりに

以上、紙数だけは重ねてきたが、不満足な結果に終わった。私の力不足が第一原因であることには違いないのだが、NDC 7版、8版のもつ問題点も大きく作用している。作成上立脚した指針といったものが発表されておらず、一貫した原理をもって表わされていないからである。後者は、筆者が見い出せなかっただけのことかもしれないが。なお、こういった比較を行なう上での障害があった。それは、8版が、7版と違って五十音順配列を採ったことである。この、8版で採用した五十音順配列法それ自体はよいのであるが、ABC順配列の7版と比較するためには、大変な労苦を要した。これは、両版を実用する実務者においては、なおさらであろう。そこで、数年前から、日本図書館研究会整理技術研究グループのなかで、幾人かが寄って、7版、8版の相関索引を一緒にした「相互索引」とでも言うべきものの作成に取りかかった。未だそれは、完成していないが、当稿の項目採録上の助けとして活用させていただいた。

なお同グループおよび相互索引編集の中心である野口恒雄氏には、本稿の組成上多大な御指導、御協力を賜わった。感謝して一言付記させていただく。

注

- 1) 中村初雄 “同定・識別についての一面” *Library and information science* 15 (1978. 3)

野村黎子 “NDC 7版と8版における相関索引の相違点～相関索引(A～H)からの一考察～” 《NDC(日本十進分類法)の相関索引について》中京大学図書館学研究紀要 2号 1981.2 p.64-73

小倉久美 “NDC相関索引の充実～新訂7版を中心にした私案～” 《NDC(日本十進分類法)の相関索引について》中京大学図書館学研究紀要 2号 1981.2 p.74-91.

日高義啓ほか “7版の相関索引の補充(1・6・7〔部門〕)” 名古屋芸術大学研究紀要 3 (1981.12) p.113-132

NDC関連索引の下部構造に関する一考察

- 2) 日本索引家協会『索引作成マニュアル』日外アソシエーツ 1983.12 237p.
同書 (p.217～224) は索引関係の解説文献目録をのせている。
- 3) 同 上 p.228
- 4) “検索語” “標目” と称する向きがある。
- 5) 日本索引家協会『索引作成マニュアル』日外アソシエーツ 1983.12p.226
- 6) 同 上 p.44
- 7) 同 上 p.55

(1984. 5. 21 受理)